

保健体育受講者に対するラグビーの価値についての アンケート調査

—2019 年度および 2020 年度受講者—

廣瀬 文彦^{*1}, 長田 朋樹^{*2}, 小原 侑己^{*2}, 齊藤 武利^{*3}

Questionnaire survey on the Core Value of rugby for health and physical
education students

—Second Half of 2019 and Second Half of 2020—

Fumihiko HIROSE , Tomoki NAGATA , Yuki OHARA and Taketoshi SAITOH

The major aim of this questionnaire survey is to clarify attitude for the Core Value of rugby. The Rugby World Cup was held in Japan in 2019 and many Japanese people noticed the goodness of rugby. WORLD RUGBY defines " INTEGRITY ", " PASSION ", " SOLIDARITY ", " DISCIPLINE " and " RESPECT " as Core Values of Rugby. We conducted a questionnaire survey on Core Values of rugby for health and physical education students who performed tag rugby. As a result they realized " PASSION " in the rugby game and practiced " SOLIDARITY " in the tag rugby physical education class. We conclude that tag rugby physical education classes may contribute to formation of character.

KEYWORDS : Core Values of rugby, health and physical education students, tag rugby

1. はじめに

元ラグビー日本代表監督・元早稲田大学教授・元早稲田大学ラグビー部監督の大西鐵之助は、スポーツと人間形成について「人間の精神は、私の考えではただ坐禅を組んでとか、そういうことで

成長するのではなしに、人間が共同してある目標のために全力を挙げてやっていく、その過程のなかに生まれてくるものだと思うわけです。スポーツはそういう教育的要素を持っている。」¹⁾と述べている。

2019 年に日本全国の 12 会場でラグビーワールドカップが開催され、これまでラグビーに関心が

*1 一般科 (Dep. Of General Education), E-mail: pt_hirose_humihiko@oyama.kosen-ac.jp

*2 一般科 (Dep. Of General Education)

*3 白鷗大学 (Hakuoh University)

なかった多くの日本人がこれをきっかけに興味を持った。例を挙げると、現代用語の基礎知識選2019 ユーキャン新語・流行語大賞の年間大賞に「ONE TEAM (ワンチーム)」が選ばれ²⁾、公益財団法人ラグビーワールドカップ2019 組織委員会が発行した「大会成果分析レポート」において「『にわかファン』は決して一様でなく、スポーツ観戦歴や観戦動機が異なるさまざまな人々で構成されていた」³⁾⁴⁾と言及しており、この大会で初めてラグビーに興味を持った、いわゆる「にわかファン」の存在が盛り上げに一役買ったとしている。

日本におけるラグビーの盛り上がりを受けて、体育科教育2020年2月号では「ラグビーワールドカップを体育授業に活かす」という特集が組まれた。その記事の中で、鈴木(2020)は体育授業において「運動が得意な子どもたちの、「勝たんがため」に行われる傍若無人な振る舞いに日々心を痛めている。今回のラグビーワールドカップは、そういった問題を子どもたちに体育の中で指導していこうとする際の格好の材料を提供してくれているように思う。」⁵⁾と述べている。この体育授業における問題は技術レベルに差のある小学校だけでなく、中学校までの体育授業で基礎技術を身に着けた高等専門学校での保健体育授業においても散見される。

ところで、小山高等工業専門学校では教育の基本理念として「技術者である前に人間であれ」を掲げている。⁶⁾ 村の祭りを起源とする「民族フットボール」から発達⁷⁾し、19世紀中頃にルールが明文化された⁸⁾⁹⁾という歴史を持つ「ラグビーの価値」を伝えることで、基本理念の実現に貢献できると考える。

「ラグビーの価値(Core Values of Rugby)」とは、具体的にはラグビーユニオンの国際競技連盟であるWORLD RUGBYが定めた「品位(INTEGRITY)」、 「情熱(PASSION)」、 「結束(SOLIDARITY)」、 「規律(DISCIPLINE)」、 「尊重(RESPECT)」のことである¹⁰⁾。

そこで、保健体育授業でラグビーを経験した受講生に「ラグビーの価値を実践できたか」のアンケート調査を行ない、その実態を明らかにした。

2. 方法

2. 1 対象者

小山工業高等専門学校における2019年度後期保健体育Ⅱ(タグラグビー)受講者(以下2019年度受講者)32名(男子27名・女子5名)および2020年度後期保健体育Ⅱ(タグラグビー)受講者32名(男子25名・女子7名)の合わせて64名を対象とした。

2. 2 授業内容

女子大学生に対する体育授業で定めた競技ルールに準じてタグラグビーを行った¹¹⁾¹²⁾。

今回の授業では受講者が男女混合であったため、性差による体力の違いを考慮して一部のルールは女子のみに適用した。この考え方は、車いすラグビーのルールでも身体的特徴や性差で設定される「ポイント制度」として用いられている¹³⁾。

2. 3 アンケート調査

2019年度受講者に対して、最終授業(2020年1月31日)終了後に質問紙を配布し、回答してもらったものを後日に共同研究者が回収した。2020年度受講者に対しては第12回授業(2020年12月18日)にラグビーの試合について講義を行った後に質問紙を配布し、授業時間内に回答してもらい回収した。質問紙には、無記名で行うため個人を特定しないこと、成績等で不利益を被らないこと、得られた情報は研究論文を作成し研究誌に投稿する目的のために使用し、それ以外の目的では使用しないことを明記した。それらはアンケートの提出によって同意を得たこととした。

以下に「択一式の質問」を示す。

- 問1. 「ラグビーまたはタグラグビーの経験(タグラグビーの授業を受ける前まで)はありましたか。」
- 問2. 「ラグビーワールドカップ前後におけるラグビーに対する興味について答えて下さい。」
- 問3. 「ラグビーワールドカップの試合を観戦(テレビまたはスタジアム)しましたか。(複数回答可)」

以下に「ラグビーの価値についての自由回答式の質問」を示す。

「ラグビー憲章にはラグビーの価値として次の

5つが挙げられています。『品位』, 『情熱』, 『結束』, 『規律』, 『尊重』 これらの2つを選び, 以下の質問について例にならい考えを書いてください。」

問4. 「ラグビーワールドカップにおいて, あなたが実感したラグビーの価値について具体的に書いてください。例) 品位について実感することができた。具体的には…」

問5. 「タグラグビーの授業において, あなたが実践できたラグビーの価値について具体的に書いてください。例) 結束について実感することができた。具体的には…」

回答欄は横書きで26字×7行を用意した。

2. 4 分析方法

分析対象は, アンケート項目のすべてに回答があった25名(2019年度受講者13名・2020年度受講者12名)とした。

「択一式の質問」は回答数をクロス集計し, ラグビーの価値についての年度間の関連のみ χ^2 検定を行ない, それ以外は作成したクロス集計表の表頭のカテゴリー別の合計数を確認した。「ラグビーの価値についての自由回答の質問」は回答が多かった問4.『情熱』と問5.『結束』について計量テキスト分析を行った。計量テキスト分析について樋口(2020)は「計量テキスト分析とは, 計量分析的手法を用いてテキスト型データを整理または分析し, 内容分析(content analysis)を行う方法である。計量テキスト分析の実践においては, コンピューターの適切な利用が望ましい。」¹⁴⁾と定義している。計量テキスト分析はKH Coder(Ver. 3. Beta. 03g)を使用し, 抽出語の出現頻度を確認し, 共起ネットワーク分析を行った。

分析を行った文は, 問4.『情熱』は22文, 問5.『結束』は21文であった。なお, 問3.で「試合を観戦しなかった」と回答した3名の問4.『情熱』の自由記述の回答は採用しなかった。

分析に採用した文は, 文意を変えないように留意した上で単語表現の統一および文表現の削除を行った。単語表現は「トライ(点)を取る(する・決める)」を「トライを取る」, 「攻め」を「アタック」, 「守り(相手を止める)」を「ディフェンス」などに統一した。さらに, 具体的な意見でないおよび質問の意図とは関係がないと筆頭著者が判断した文は採用しなかった。

3. 結果

3. 1 (タグ)ラグビー経験

「択一式の質問」の選択肢は, 授業を受講するまでに「部活動またはクラブチームで経験あり」, 「授業(中学校または小学校)で経験あり」, 「経験なし」とした。(表1)

表1 (タグ)ラグビー経験

	部活	授業	なし	計
2019年度	0	3	10	13
2020年度	0	3	9	12
計	0	6	19	25

(タグ)ラグビー経験に関しては初級者または初心者であった。この結果と授業の様子からラグビー経験に差はないと考える。

3. 2 ラグビーに対する興味

「択一式の質問」の選択肢は, 「ワールドカップ前から興味があった」, 「ワールドカップ後に興味を持った」, 「現在も興味が無い」とした。

図1で「ワールドカップ前から興味があった」人数を横軸に, 「ワールドカップ後に興味を持った」人数を縦軸に, 「現在も興味がない」人数をバブルの大きさに示した。(図1)

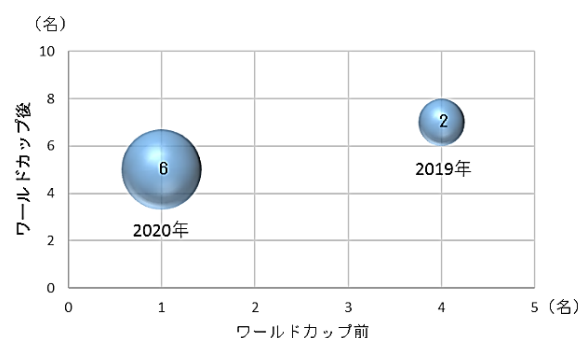


図1 ラグビーに対する興味

ラグビーワールドカップが開催された2019年度は2020年度に比べてラグビーワールドカップの影響が興味に結びついたと考える。

しかし, 研究対象者64名中, アンケートの回答

未提出または不完全回答 39 名の多くはラグビーに興味がないと考えられ、「現在も興味がない」8名と合わせると人数の割合は73%となり、ラグビーに対しては興味がない集団であった。

3. 3 ラグビーの試合観戦

「択一式の質問」の選択肢は、「日本代表の試合を観戦した」、「予選リーグ（日本代表戦以外）の試合を観戦した」、「決勝トーナメント（日本代表戦以外）の試合を観戦した」、「試合を観戦しなかった」とした。（表2）

表2 ラグビー試合観戦

	日 本	予 選	決 勝	な し	計
2019年度	10	5	5	3	23
2020年度	6	2	1	5	14
計	16	7	6	8	37

2019年度は授業期間中にラグビーワールドカップが開催されていたため、2020年度に比べて試合観戦をした人数は多かった。

3. 4 ラグビーの価値（試合）

クロス集計表における表頭の категория は「品位」、「情熱」、「結束」、「規律」、「尊重」で、「ラグビーワールドカップの試合で、あなたが実感したもの」の回答を集計した（表3）。

表3 ラグビーの価値（試合）

	品 位	情 熱	結 束	規 律	尊 重	計
2019年度	4	10	5	3	4	26
	15%	38%	19%	12%	15%	100%
2020年度	3	7	9	2	3	24
	13%	29%	38%	8%	13%	100%
計	7	17	14	5	7	50
	14%	34%	28%	10%	14%	100%

年度とラグビーの価値の関係について χ^2 検定を行ったところ、有意差は認められなかった。（ $\chi^2(4) = 2.081, p > .05$ ）よって年度間には差があるとは言えなかった。

ラグビーの価値の合計数は「情熱」が最も多く、次いで「結束」となった。

次に、最も多かった「情熱」についての自由回答データの計量テキスト分析結果を以下に示す。

共起ネットワーク分析は描画する共起関係の選択で上位60語として現れた5グループのうち頻出語の上位である「選手」「感じる」「情熱」「試合」を含む2グループを図で示した（表4・図2・図3）。

表4 頻出語上位リスト

抽出語	出現数	抽出語	出現数
選手	15	ラグビー	4
感じる	9	見る	4
情熱	8	取る	4
試合	6	代表	4
トライ	4		

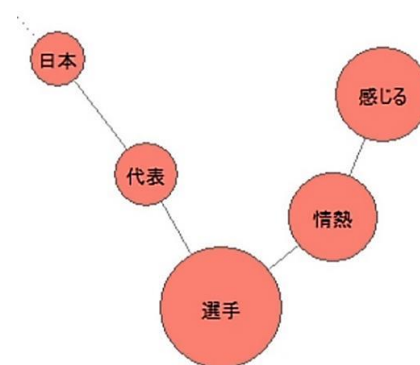


図2 「情熱」の共起ネットワーク1

出現回数が多かった「選手」「感じる」「情熱」が含まれるグループは、『日本代表選手に情熱を感じた』という考えを読み取ることができた。

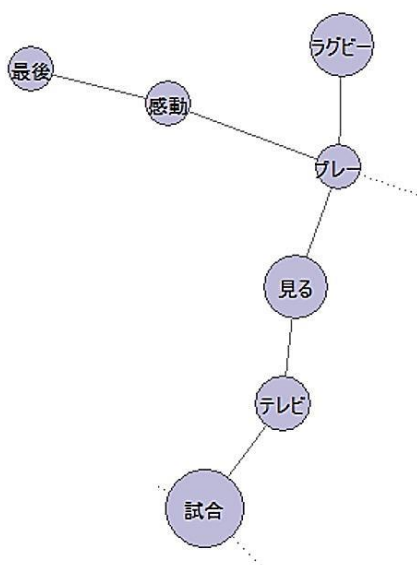


図3 「情熱」の共起ネットワーク2

出現回数が多かった「試合」が含まれるグループは、『試合をテレビで見て、ラグビーのプレーに最後まで感動した』という考えを読み取ることができた。

3.5 ラグビーの価値（授業）

クロス集計表における表頭のカテゴリーは「品位」、「情熱」、「結束」、「規律」、「尊重」で、「タグラグビーの授業で、あなたが実践できたこと」の回答を集計した（表5）。

	品位	情熱	結束	規律	尊重	計
2019年度	2 8%	3 12%	12 46%	4 15%	5 19%	26 100%
2020年度	2 8%	8 33%	5 21%	4 17%	5 21%	24 100%
計	4 8%	11 22%	17 34%	8 16%	10 20%	50 100%

年度とラグビーの価値の関係について χ^2 検定行ったところ、有意差は認められなかった。 $(\chi^2(4) = 5.083, p > .05)$ よって年度間には差があるとは言えなかった。

ラグビーの価値の合計数は「結束」が最も多く、次いで「情熱」となった。

次に、最も多かった「結束」についての自由回答データの計量テキスト分析結果を以下に示す。

共起ネットワーク分析は描画する共起関係の選択で上位90語として現れた7グループのうち頻出語の上位である「チーム」「パス」「感じる」「結束」「人」を含む3グループを図で示した（表6・図4・図5・図6）。

表6 頻出語上位リスト

抽出語	出現数	抽出語	出現数
チーム	8	人	7
パス	7	ディフェンス	6
感じる	7	トライ	6
結束	7	相手	6

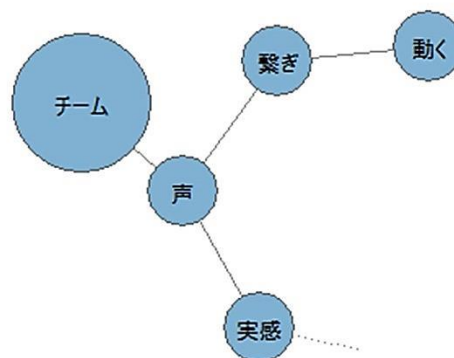


図4 「結束」の共起ネットワーク1

出現回数が多かった「チーム」が含まれるグループは、『チームで声を掛け合い、ボールを繋いだり、動いたりして結束を実感した』という考えを読み取ることができた。

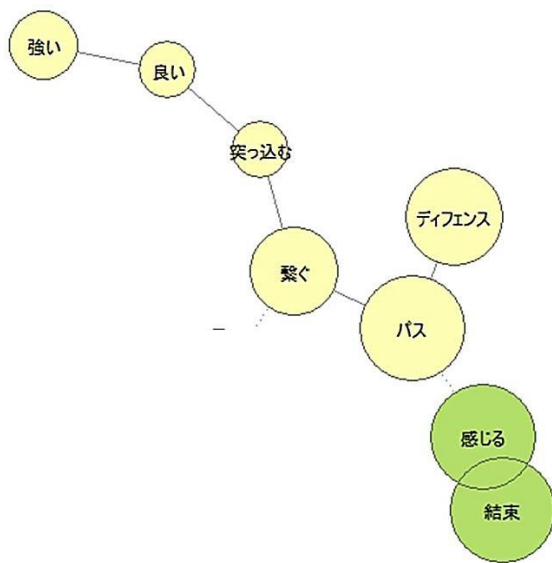


図5 「結束」の共起ネットワーク2

出現回数が多かった「パス」「感じる」「結束」が含まれるグループは、『ディフェンスに対してパスを繋いで突っ込むことで良いプレーや強さに繋がり、それに結束を感じた』という考えを読み取ることができた。

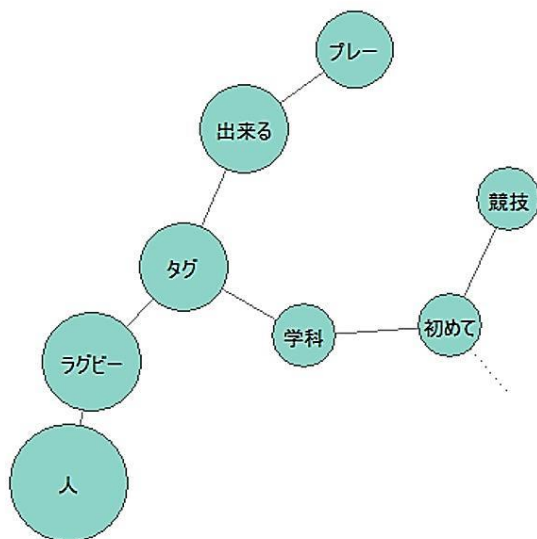


図6 「結束」の共起ネットワーク3

出現回数が多かった「人」が含まれるグループは、『タグラグビーをという初めての競技を初めてかかわる学科の受講生とプレーできた』という考えを読み取ることができた。

4. 考察

4. 1 ラグビーの価値

WORLD RUGBY が定めた「ラグビーの価値 (CoreValues)」の詳細は以下のように定義されている¹⁰⁾。

「品位」

品位とはゲームの構造の核を成すものであり、誠実さとフェアプレーによって生み出される。

「情熱」

ラグビーに関わる人々は、ゲームに対する情熱的な熱意を持っている。ラグビーは、興奮を呼び、愛着を誘い、グローバルなラグビーファミリーへの帰属意識を生む。

「結束」

ラグビーは、生涯続く友情、絆、チームワーク、そして、文化的、地理的、政治的、宗教的な相違を超えた忠誠心へとつながる 一体的な精神をもたらす。

「規律」

規律とはフィールドの内外においてゲームに不可欠なものであり、競技規則、競技に関する規定、そして、ラグビーのコアバリューを順守することによって表現される。

「尊重」

チームメイト、相手、マッチオフィシャル、そして、ゲームに参加する人を尊重することは最も重要である)としている。

4. 1. 1 ラグビーワールドカップにおいて実感したラグビーの価値

「情熱」を選んだことは、具体的にはゲームに対する熱意を実感できたためである。

ラグビーは勝負にこだわることも重要であるが、チームのスタイルを示すことも同じくらい重要であると考えられている。ラグビー日本代表はワールドカップ2015で「Japan Way」、ワールドカップ2019で「One Team」を世界に示すためにゲームに挑んでいた。勝ちゲームはもちろんであるが、負けゲームにおいてもフルタイムの瞬間まで自分たちのスタイルを示し続けていたことを感じ取ったのではないかと。

4. 1. 2 授業において実践できたラグビーの価値

「結束」を選んだことは、具体的にはチームワークを実践できたためである。

受講者には、タグラグビーでは、ボールを持っているプレーヤー（以下ボールキャリアー）に対して味方のプレーヤー（以下フォロワー）が常に声を掛けて自分のいる位置を教えることが重要であると伝えた。それは、反則（オフサイド）にならないためにボールキャリアーは味方チームの一番前におり、フォロワーが見えないことが多いためである。

タグラグビーではボールキャリアーのプレーの選択は、ボールを持って走る「ラン」または味方の選手にボールを渡す「パス」の2つである。タグラグビーの動きに慣れない時は、相手チームの選手にタグを取られないように逃げるように「ラン」を選択することが多かった。しかし、プレーの選択に余裕が出てきて、フォロワーの声を聞けるようになると「パス」で有効なアタックが出来るようになり、その結果として「結束」を実践できた。

加えて、学科の垣根を越えて種目選択をした授業受講者同士で結束できたことも回答に反映された。

一方で、溝畑（2007）は「スポーツが人間形成の一翼を担ってくれる部分が多分にあることは認められるが、スポーツをしてさえいれば自然に良い人格が身につくというものではない。」¹⁵⁾と述べ、さらに、鈴木（2020）は「言うまでもないが、ラグビーやタグラグビーをすればノーサイドの精神がオートマティックに発揮されるわけではない。ラグビーにそのような魔力はない。」⁵⁾と述べている。その通りであり、「ラグビーの価値」をタグラグビーで実践するには工夫が必要である。今後は「ラグビーの価値」を実践できるようなルール設定をすることが課題である。

4. 2 今後の課題

今回の調査において明らかになった課題を以下に示して、その解決策を述べる。

4. 2. 1 授業内容

今後の保健体育授業でタグラグビーを経験する際に、レフリーなしでゲームを行うことを考えている。

19世紀に現代のサッカーやラグビーが現れる以前のフットボールであった「民族フットボール」について、山本（1998）は「民族フットボールのもう一つの共通点は、レフェリーがいなかったということである。これは、ルールがほとんどないということから必然的に出てくる特徴であった。…（中略）…民族フットボールの場合はレフェリーが存在しなかったため、ゲーム進行のコントロールはプレーヤー自身に委ねられていた。」¹⁶⁾と述べ、大西鐵之助（2015）は「スポーツをやっとる時には、二律背反の、ええことと悪いことを選択を迫られる場に必ずおかれるんです。その時に、自分の意思でいいほうに選択していく。これがフェアであります。すでに決まっているある基準によって決めるんじゃなしに、自分で決める」つまり、「合法（ジャスト）」より上位の「きれい（フェア）」を優先する」¹⁾と述べている。さらに、上野哲（2018）はサッカーにおいて審判がリスペクトされるために『ドイツの子どもは審判なしでサッカーをする』という書籍を紹介¹⁷⁾している。

今後の保健体育授業のゲームでは、あらかじめ決められたルールを伝えるが、「プレーオン（反則なし）」か「反則」の判断はゲーム参加者自身で行い、ゲーム参加者間やチーム間で争いが起きた場合にはお互いのゲームキャプテン同士の話し合いで解決をする。その話し合いがまとまらない場合には授業担当教員またはレフリー専門の授業受講者が仲裁するという方法で進める。

これらのことを争いなく行うことで授業受講者が自分の判断で「規律」を守り、ゲーム参加者を「尊重」する気持ちを身に着けることができる。

さらに、三村（2021）は小学校の体育授業において「技能の個人差、男女差が大きい高学年の子どもたちに、ボール運動を通して運動をする楽しさや仲間と力を合わせる喜びを感じさせるにはどうしたらよいか、私の体育の学習においての大きな課題であった。」とし、その結果として「学級の子どもたちにとってあまりなじみのないスポーツ、『タグラグビー』を教材として取り入れようと考えた。」¹⁸⁾と述べている。今回の授業では、なじみのないスポーツであったタグラグビーは他の種目と比較して技術レベルに差はみられなかった。しかし、性差による体力の違いを考慮して一部のル

ールは女子のみに適用した。今後の保健体育授業では、タグラグビーに必要なスピードと敏捷性の測定を行い、その結果の体力差でハンデキャップをつけることを考えている。それによって平等ではなく公平にゲームを楽しむことができる。

4. 2. 2 アンケートの完全回答率

研究対象者64名中、アンケートの回答未提出または不完全回答が39名であり、アンケートの完全回答率は39.1%であった。そのため、保健体育授業に参加した集団のアンケート調査結果を正確に反映しているとは言い難い。今後はアンケート実施のタイミングや設問を工夫することによってアンケートの完全回答率を向上させたい。

4. 2. 3 アンケート調査の回答方法

今回の自由回答式の記述方法は「ラグビーの価値」を選んで、指定された文に続けて書くという課題であった。そのため、選んだ「ラグビーの価値」を記述文中に省略して回答したと推測され、文中の出現頻度が低くなり抽出語との共起関係が正しく反映されなかった。今後は、「ラグビーの価値」をキーワードとして挙げ、それを用いて自由回答したデータの共起関係を分析することにより、得られた意見の全体像をつかみ、回答の信頼性を向上することができると思う。

5. 結論

1. ラグビーのゲームを観戦する際に「ラグビーの価値」を意識することが重要である。
2. 保健体育授業でタグラグビーを経験することで「ラグビーの価値」を実践するにはルール設定が必要である。
3. 今後は授業内容とアンケート調査方法の改善が必要である。

6. 謝辞

小山工業高等専門学校 2019 年度後期および

2020 年度後期保健体育Ⅱ（タグラグビー）受講者には、慣れない競技に真剣に取り組んでいただき、さらにアンケートに協力をしてくださいまして深く感謝しております。

参考文献

- 1) 大西鐵之助：闘争の倫理 スポーツの本源を問う，p548・p227・pp287-288・鉄筆文庫（2015）
- 2) 日本経済新聞：流行語年間大賞に「ONE TEAM」ラグビー快進撃，<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ052854310S9A201C1CR8000/>，参照日2021年8月23日
- 3) 日本経済新聞：詳細なラグビーW杯分析書 労作 スポーツ界の遺産に，<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ062137700R30C20A7000000/>，参照日2021年8月23日
- 4) JRFU公益財団法人日本ラグビーフットボール協会ホームページ：「ラグビーワールドカップ2019TM日本大会 開催後経済効果分析レポート」「ラグビーワールドカップ2019TM日本大会 大会成果分析レポート」，<https://www.rugby-japan.jp/news/2020/06/24/50498>，参照日2021年8月23日
- 5) 鈴木秀人：ラグビーW杯を体育の授業にどう活かすか，体育科教育，2020(2)，pp12-16(2020)
- 6) 小山工業高等専門学校ホームページ：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/>，参照日2021年8月11日
- 7) 吉田文久：英国イングランドに残存する民俗フットボールについて—その多様性と類似性及び変容—，日本福祉大学研究紀要—現代と文化，第135号（2017），pp23-40(2017)
- 8) 中村敏雄：スポーツルールの社会学，朝日新聞社，ppP54-55（1991）
- 9) 溝畑寛治：ラグビー校のフットボール・ルールから「ラグビー精神」をみる，身体運動文化フォーラム，3，pp15-25(2008)
- 10) WORLD RUGBY：競技規則 Rugby Union ラグビー憲章を含む 2021，pp3-14(2021)
- 11) 廣瀬文彦・早坂一成・齊藤武利：タグラグビーにおけるルール設定による主観的評価の検証：ボールの争奪と継続，白鷗大学教育学部論集，14(2)，pp179-191(2020)
- 12) 廣瀬文彦・齊藤武利：タグラグビーにおけるルール設定による主観的評価の検証：ゲーム参加者によるルール変更，白鷗大学教育学部論集，15(1)，pp139-

160(2021)

- 13) かんたん！車椅子ラグビーガイド：公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会, p4(2019)
- 14) 樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析ー内容分析の継承と発展を目指してー第2版, ナカニシヤ出版：p15 (2020)
- 15) 溝畑寛治：ノースサイドの精神に学ぶ人間力～真のラグーマン・真のスポーツマンを目指して～, 身体運動文化フォーラム, 2, pp37-62(2007)
- 16) 山本浩：フットボールの文化史, p58, 株式会社 筑摩書房 (1998)
- 17) 上野哲：ドイツにおけるサッカー審判員の実情, 小山工業高等専門学校 研究紀要第51号, pp1-6(2018)
- 18) 三村陽子：子供の主体性が生きるボール運動の単元開発, 教育実践研究, 第22集 (2012) , pp213-218(2012)

[受理年月日 2021年9月14日]